

＜震度計設置環境調査票＞

(H31.3版)
気象庁地震火山部

震度観測点の設置環境を点検するために、以下の調書にご記入ください。なお、必要な写真及び資料の提出をお願いいたします。
回答により、以降の設問が異なる場合がありますのでご注意ください。
補足欄は記入のお願いが無い場合でも、ご自由にお書きください。

○はじめに、点検を行う震度観測点について名称、住所等をご記入、ご確認の上点検を行ってください。

都道府県名			
震度観測点名称			
震度観測点コード		設置機関	
住所			
施設名			

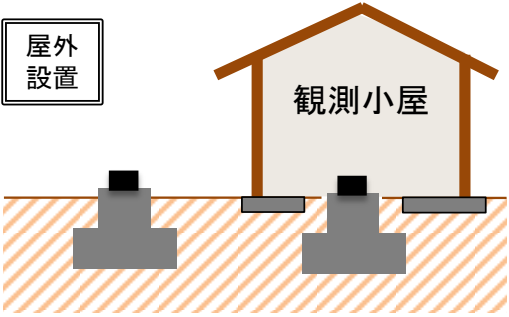
＜記入者＞

所属			
氏名		電話	
設置日※1		点検日※2	

※1 <定期調査・臨時調査の場合は記入不要>
今回の震度計の設置・移設・改修等を実施した期日。事前調査資料の場合は、設置・移設・改修等の予定時期をご記入ください。
※2 本調査票に基づく点検を行った期日

○震度計の設置場所は、屋外ですか。屋内ですか。(いずれか一つに○)

- ・地盤と震度計が一体となって揺れる場合は「屋外設置」、建物と震度計が一体となって揺れる場合は「屋内設置」とします。
- ・建物の内側であっても、観測小屋および基礎のないプレハブ等の建屋内に設置されていて、震度計台が建物と切り離されている場合は「屋外」としてください。
- ・建物の外側であっても、建物の周囲の犬走りやピロティ(建物内の1階床面又は基礎と一体となって揺れることが条件)に直接震度計を固定している場合は「屋内」としてください。



屋外に設置している。		⇒調査票(屋外)シートへ
屋内に設置している。		

○震度計を屋内に設置する場合は、その理由をご記入ください。
《定期調査・臨時調査の場合は記入不要》



※震度計の設置場所は、屋外で適切な場所が見つからない場合には、次善の策として屋内設置も適切であるとしています。 (「震度に関する検討会」報告書、H21.3、気象庁・消防庁)

⇒調査票(屋内)シートへ

<屋外への設置>

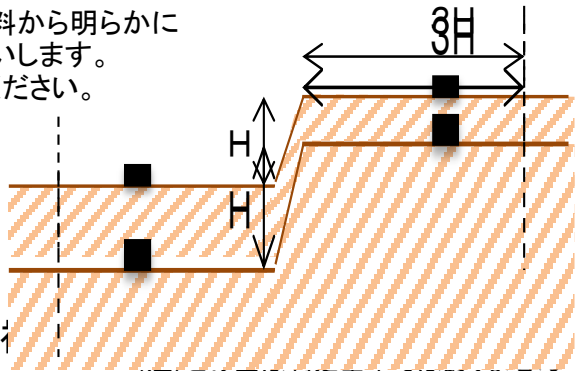
(1) 崖や斜面等の段差について

① 震度計設置場所の周辺に崖や斜面等の段差がありますか。(いずれか一つに○)

※「段差からの距離」が「段差の高さの3倍」よりも離れていることが、写真や添付図面等の資料から明らかに分かるものは、本調査票に記載する必要はありません。明らかではない場合は記載をお願いします。
※ 免震構造物の免震ピットや、幅1m以上もしくは深さ1.5m以上の側溝も、段差として扱ってください。

段差がある。	
段差はない。	

⇒(2)-①へ



② 段差は、自然斜面、盛土、切土のいずれですか。(該当するものに○、複数ある場合はすべて記入してください。)

自然斜面		盛土		切土	
その他		⇒(1)-⑤に具体的に記入してください。			

← 3H →

(注)この図は判定基準ではありません

③ 段差と震度計の位置関係を具体的にご記入ください。

	段差の種類や特徴	震度計から見た段差の方角	段差に対する震度計の位置※ ¹	段差の高さ(m)	段差の上端～震度計(センサー)の距離※ ² (m)	段差の下端～震度計(センサー)の距離※ ² (m)	備考
(例)	比較的急な崖	NE	上側	10	20	30	
(例)	緩やかな自然斜面	—	斜面上	30	—	—	斜面の上端寄り
(例)	盛土	SW	上側	1	1	3	マンホール内に設置
(例)	免震ピット	N	上側	3.5	5	5	
(例)	擁壁	S	下側	3	2	2	
1							
2							
3							
4							

※1 震度計がマンホール内に設置されている場合は、マンホールの上面が段差の上側、下側、斜面上のいずれにあるかで判断し、備考に「マンホール内に設置」と記入してください。
※2 段差の端から震度計センサー中心までの距離を記入してください。

④ 段差の崩落の危険性についてお答えください。(いずれか一つに○)

崩落の危険性があり、震度計が直接その影響を受けるおそれがある。	
崩落の危険性がない。または、崩落防止の対策が施されており、震度計が崩落の影響を受けるおそれはない。	

⑤ 補足(特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。)

(2)地盤の状態について

① 震度計設置場所の周囲の地盤についてお答えください。(いずれか一つに○)

改変のない自然地形もしくは切土(台地や山地等の谷を除く)	
旧河道や池・沼・海を埋立てた場所	
台地や山地等の谷	
盛土による大規模な造成地	
その他	

⇒(2)-⑥に具体的に記入願います

②震度計設置場所の周囲の地盤は、その地域を代表する地盤ですか。(いずれか一つに○)

その地域を代表する地盤である。	
周囲と揺れが異なる地盤かどうか不明。	
その場所のみに見られる特殊な地盤であり、周囲と揺れが異なる地盤である。	

③ 震度計設置場所の近傍の地盤の転圧状況についてお答えください。(いずれか一つに○)

転圧は十分である。(ふわふわしない。足で強く踏んでも地面が揺れたり、めり込む等しない。)	
転圧は不十分である。(ふわふわする。足で強く踏むと地面が揺れる、あるいはめり込む。)	
不明である。	

④ 震度計に近接した庁舎等の建物はありますか。(いずれか一つに○)

ある	
ない	

⇒(2)-⑤へ

④-1 どのような建物ですか。(具体的にご記入ください)

	どのような建物ですか	地階等床下の有無	建物から震度計センサー中心までの距離(m)
(例)	○×役場庁舎		5
1			
2			
3			
4			

※地階や地下ピット等床下がある場合は、床下の大きさがわかる図面を添付ください。

④-2 震度計の設置場所は建物の建築後に埋め戻された地盤ですか※。(いずれか一つに○)

※ 建物の建設工事に伴い、敷地を掘り起こした後、工事終了時に埋め戻した地盤の意味です。

埋め戻された地盤である。	
埋め戻された地盤ではない。	
不明	

⑤ 花壇や植栽等に震度計を設置していますか。(いずれか一つに○)

花壇等に設置していない。	
花壇等に設置している。	

⇒(3)-①へ

⑤-1 花壇や植栽等の下の本来の地盤に震度計台を埋設するか、パイルを打って本来の地盤との結合を強固にする等の措置をしていますか。(いずれか一つに○)

本来の地盤に震度計台を埋設する等の措置(パイル等を含む)をしている。	
本来の地盤に震度計台を埋設する等の措置(パイル等を含む)をしていない。	

⑥ 補足(特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。)

(3) 震度計の直下または近傍にある空洞構造物(地下タンクや埋設管等)について

① 震度計の直下または近傍に地下タンクや埋設管等の空洞がありますか。(いずれか一つに○)

※震度計台の端から1m以上離れており、なおかつ「空洞構造物の奥行きの長さ」以上離れていることが、写真や添付図面等の資料から明らかに分かるものは、本調査票に記載する必要はありません。明らかではない場合は記載をお願いします。

ある		
ある(震度計センサーケーブル用管路のみ)		⇒(3)-③へ
ない		⇒(4)-①へ
不明		

② 直下または近傍にある空洞構造物について、具体的にご記入ください。

	深さ(m) ^{※1}	震度計台端からの距離(m) ^{※2}	震度計センサー中心からの距離(m) ^{※3}	寸法 ^{※4}
(例)地下タンク	1	—	5	7×5×3(m)
(例)側溝	0	—	1	幅0.45×深さ0.6(m)
(例)水道管	0.4	1	—	φ50

※1 地表から構造物上端までの深さ(単位m)を記入してください。(側溝やマンホールなど地表に出ているものや庁舎地階や地下ピット等の空洞構造物は0mとなります。)

※2 震度計台の端(埋設部分を含む)から地下構造物の端までの水平距離(単位m)を記入してください。

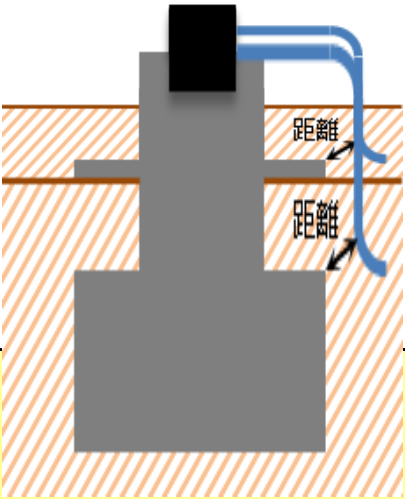
※3 震度計センサー中心から地下構造物の端までの水平距離(単位m)を記入してください。

※4 埋設管の場合は管径(単位φ 例φ100＝直径100mm)を、地下タンクや庁舎地階や地下ピット等の場合は縦(震度計台から見て離れていかない方の辺の長さ)×横(震度計台から見て離れていく方の辺の奥行き)×高さ(深さ)を単位(m)を含めて記入してください。

③ 震度計台の脇にセンサーケーブル用管路を埋設している場合は、具体的にご記入ください。

	震度計台端からの距離(m) [※]	直径(mm)
センサーケーブル用管路		

※震度計台埋設部と管路の最も近い距離を記入してください。
なお、可能な限り、管路の直径以上離して埋設してください。



④ 補足(特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。)

(4) 柱状構造物等について

- ① 震度計設置場所周辺に柱状構造物（鉄塔、ポール、樹木、電柱等）はありますか。（いずれか一つに○）
※「柱状構造物の高さ」以上離れていることが、写真や添付図面等の資料から明らかに分かるものは、本調査票に記載する必要はありません。明らかではない場合は記載をお願いします。

ある		
ある（震度計のための引き込み柱、またはこれに準ずる小型のもののみ）		⇒(4)－③へ
ない		⇒(5)－①へ

- ② 柱状構造物について、具体的にご記入ください。
※林などで樹木が多数ある場合は、そのうち顕著なものを②に記入し、全体の状況を④にご記入ください。

	鉄塔	木	ポール	電柱	その他1	その他2	その他3
構造物名							
高さ(m)							
震度計センサー中心からの距離(m)							

- ③ 震度計のためのパンザマストなど引き込み柱、またはこれに準ずる小型の柱状構造物がある場合は、その種類、型番または諸元（高さ・外径・重量等）、震度計までの距離をご記入ください。

- ④ 補足（特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。）

(5) 車の衝突の対策について

- ① 駐車場内（または駐車場外でも車の衝突のおそれがある場所）に震度計を設置していますか。（いずれか一つに○）

設置している。		
設置していない。		⇒(6)－①へ

- ② 保護柵を設置する等、車の衝突防止策を講じていますか。（いずれか一つに○）

保護柵等の衝突防止策を講じている。	
保護柵等の衝突防止策を講じていない。	

- ③ 補足（衝突防止策について具体的にご記入ください。その他、特記事項等がありましたら、ご記入ください。）

(6) 観測小屋および基礎のないプレハブ等の建屋（局舎等）※について

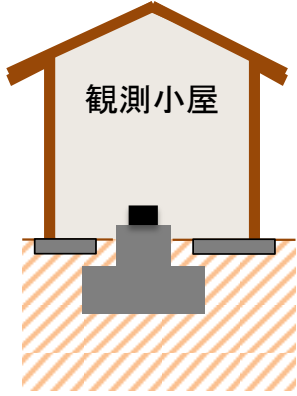
※震度計台とは切り離して震度計専用に建てられた局舎等の小屋

- ① 観測小屋および基礎のないプレハブ等の建屋内に震度計を設置していますか。（いずれか一つに○）

設置している。		
設置していない。		⇒(7)－①へ

- ② 建屋の堅牢性についてお答えください。（いずれか一つに○）

堅牢性がある。	
堅牢性がない。	



<震度計の取り付け状況等について>

(7) 震度計台の材質・形状等について

① 震度計台の材質についてお答えください。(いずれか一つに○)

材質はコンクリートである。	
材質はコンクリートではない。	

⇒(7)-⑦に具体的にご記入ください。

② 震度計台の構造についてお答えください※。(いずれか一つに○)

空洞のある構造である。(ケーブル用管路・水抜き穴のみの場合を除く)	
【定期調査のみ】 震度計台内にセンサーケーブル用管路や水抜き穴が通っている。	
空洞のない構造である。	

⇒(7)-⑦に具体的にご記入ください。
⇒(7)-⑦に管路直径をご記入ください。

※震度計台の図面を添付願います。

③ 震度計台のひびの状態についてお答えください※。(いずれか一つに○)

震度計の真下に明瞭な(0.2mm程度以上)ひび割れがある。	
震度計に向かって明瞭な(0.2mm程度以上)ひび割れがある。	
明瞭な(0.2mm程度以上)ひび割れがあるが、震度計に向かっていない。	
軽微な(0.2mm程度以下)ひび割れがある。	
ひび割れはない。	

⇒(7)-④へ

※ 状況のわかる写真を添付願います。

③-1 ひび割れは前回調査時よりも拡大していますか。(いずれか一つに○)

《定期調査・臨時調査の場合のみご記入ください》

拡大している。	
拡大していない。	
不明	

⇒(7)-⑦に状況を具体的にご記入ください。

④ 震度計台の形状についてお答えください。(いずれか一つに○)

凸型である	
直方体である	
円柱である	
ハンドホール型	
その他	

⇒(7)-⑤へ
⇒(7)-⑥に具体的に記入(別紙可)後、(7)-⑦へ

④-1 中心部の小台とハンドホールが一体化されているかお答えください。(いずれか一つに○)

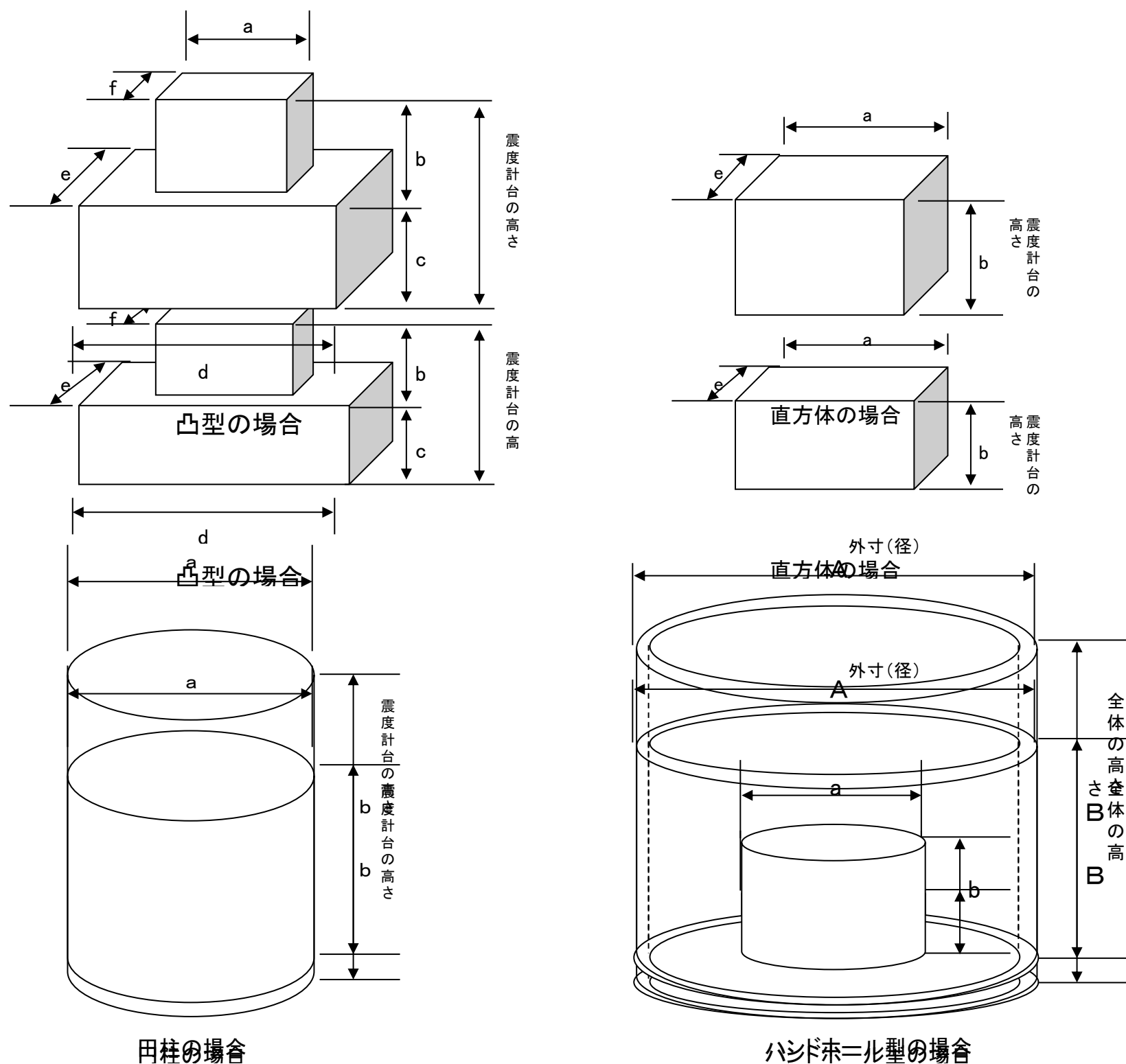
一体化されている。	
一体化されていない。	

⑤ 震度計台の大きさについてお答えください。

(図を参考に該当する各辺の長さ(a, b, c, d, e, f, A, B) (単位cm)をご記入ください。)

a		cm
b		cm
c		cm
d		cm
e		cm
f		cm

A		cm
B		cm



⑥ 震度計台の形状について特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。(別紙可)

--

⑦ 補足(特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。)

--

(8)震度計台の埋設および震度計センサーの固定状況について

① 震度計台^{※1}は本来の地盤^{※2}にどの程度の深さ(cm)^{※3}まで埋設していますか。

震度計台の埋設深		cm
(参考)震度計台の高さの1/2		cm
(参考)震度計台の高さの2/3		cm

※1 ハンドホールの場合は以下の要領で記入してください。

中心部の小台とハンドホールが一体化している場合：ハンドホールの外側の高さを震度計台の高さとしてください。

中心部の小台とハンドホールが一体化していない場合：小台の高さを震度計台の高さとして記入してください。また、小台の下端がハンドホール外側の下端とほぼ同じ高さかそれより上に位置している場合（すなわち、ハンドホール外側が小台を完全に覆っている場合）は、ハンドホール外側の埋設深も判定の対象となりますので、本来の地盤からのハンドホール外側の埋設深を(8)～(10)に記入してください。

※2 本来の地盤とは自然地形、切土、盛土をいい、花壇や沼・池を埋めた場所等の表面の軟弱な土は本来の地盤とはしないでください。花壇であれば、表面の軟弱な土の下の方の固い地盤を指します。

※3 捨てコン部分は埋設深に含みません。

②埋設工事の施工状況についてお答えください。(それぞれの項目について該当するものに○)

	栗石	捨てコン	転圧	パイル
あり				
なし				
不明				

②-1 埋設工事の施工状況について補足等ありましたらご記入ください。

③ 震度計台にがたつき等がありますか。(該当するものに○、複数回答可)

手や足で押しても動かないなど、がたつきはない。	
手、足で押すと動く。※	
周辺を飛び跳ねると震度計台が揺れる。※	

※震度が計測された場合は、その数値を(8)～⑩にご記入ください。

④ 震度計台と周辺のアスファルトまたはコンクリートとの切り離し状況についてお答えください。(いずれか一つに○)

周辺のアスファルトまたはコンクリートと切り離されている。	
周辺のアスファルトまたはコンクリートと密着している。	
周辺はアスファルトまたコンクリートで舗装されていない。	

⑤ 柱状構造物の基礎や樹木・植栽の根が震度計台に接触していますか。(いずれか一つに○)

接触している。	
接触しているか不明。※	
接触していないが、今後根の成長により接触する恐れがある。	
接触していない。	

⇒(8)～⑥へ

※根が震度計台の方向へ向かっていることがわかるなど、接触している可能性が否定できない場合を除き、柱状構造物からある程度(高さ以上)離れていれば、接触していないとしていただいて構いません。

⑤-1 接触について、具体的な状況をご記入ください。

⑥ 震度計センサーと震度計台との固定状況についてお答えください。(いずれか一つに○)

アンカーボルトで強固に結合されている。	
アンカーボルトを使用しているが固定が甘く、手で動かすと、がたつく。	
アンカーボルトを使用していない。	

⑦ 震度計センサーは水平に設置されていますか。(いずれか一つに○)

水平に設置されている。	
水平に設置されていない。	

⑧ 落下物等への対処についてお答えください。(該当するものに○、複数回答可)

震度計台または震度計台に固定したセンサーを覆うカバーがない。	
観測点の周りに柵等を設置していない。	
観測点の周囲や上に、固定されていない什器や荷物等がある。	
観測点は比較的人や車が立ち入る場所である。	
その他	

⇒(8)～⑩に具体的にご記入ください。

⑨ 震度計の近くにノイズの要因になり得るものの有無についてお答えください。(該当するものに○、複数回答可)

道路が近い(50m以内を記入)。	
鉄道が近い(50m以内を記入)。	
空調施設の室外機や発電機等のモーターで振動を起こす機械が近い(3m以内)。	
その他	

⇒(8)~⑩に具体的にご記入ください。

⑩ 補足(特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。)

＜その他＞

(9)ボーリングデータの有無

観測点または観測点近傍のボーリング調査資料はありますか。(いずれか一つに○)

ある※		ない	
-----	--	----	--

※ボーリング調査資料を添付願います。

(10)その他全体的に気がついたこと

その他気がついたことがありましたら、ご自由にご記入ください。

<屋内への設置>

(1)地盤の状態について

① 震度計設置場所の周囲の地盤についてお答えください。(いずれか一つに○)

改変のない自然地形もしくは切土(台地や山地等の谷を除く)	
旧河道や池・沼・海を埋立てた場所	
台地や山地等の谷	
盛土による大規模な造成地	
その他	

⇒(1)～③に具体的に記入願います

②震度計設置場所の周囲の地盤は、その地域を代表する地盤ですか。(いずれか一つに○)

その地域を代表する地盤である。	
周囲と揺れが異なる地盤かどうか不明。	
その場所のみに見られる特殊な地盤であり、周囲と揺れが異なる地盤である。	

③ 補足(地盤の状態について特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。)

(2)建物の構造について

① 建物の構造(いずれか一つに○)と階数をお答えください。

鉄筋コンクリート		建物の階数	地上		階
木造			地下		階
その他					

⇒(2)～③に具体的にご記入ください。

② 建物の免震・制振構造の有無についてお答えください。(いずれか一つに○)

免震・制振構造あり	建物内に設置している。	
	地盤側の基礎に設置している。	
免震あるいは制振構造ではない。		

③ 建物の建築年、施設管理者の建物の堅牢性についてのコメント(その他特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。)

③－1 建物の堅牢性についてお答えください。(いずれか一つに○)

建物の堅牢性がある。	
建物の堅牢性がない。	

④ 建物の耐震診断を受けていますか。(いずれか一つに○)

耐震診断を受けている。※	
耐震診断を受けていない。	

⇒(3)－①へ

※耐震診断結果を資料として添付願います。

④－1 耐震診断の結果(Is値等)についてご記入ください。

(3) 建物内での震度計の設置場所について

① 震度計を設置している階層についてお答えください。(いずれか一つに○、地下は階数を記入)

1階		地下※		事前調査	
その他(具体的にご記入ください。)					

※地階に設置する場合は、設置環境で「適切」となる場所との揺れが同程度かどうか事前確認が必要です。事前確認を行った場合は、その資料を添付願います。

② 震度計を建物の犬走りに設置していますか。(いずれか一つに○)

犬走りには設置していない。		⇒(3)-③へ
コンクリート床の犬走りに設置している。		
コンクリート床ではない犬走りに設置している。		

②-1 犬走りへの配筋の状況についてお答えください。(いずれか一つに○)

コンクリートに鉄筋が入っている。※	
コンクリートに鉄筋が入っていない。	
コンクリートに鉄筋が入っているかどうか不明である。	

※鉄筋が入っていることを示す図面または金属探知機での確認結果を資料として添付願います。

②-2 周囲に崩落の危険性のある段差はありますか。(いずれか一つに○)

崩落の危険性のある段差がある。	
崩落の危険性のある段差はない。	

③ 車の衝突のおそれがある場所(駐車場に近接する犬走り、屋内駐車場等)に震度計を設置していますか。(いずれか一つに○)

設置している。	
設置していない。	

⇒(3)-④へ

③-1 保護柵を設置する等、車の衝突防止策を講じていますか。(いずれか一つに○)

保護柵等の衝突防止策を講じている。	
保護柵等の衝突防止策を講じていない。	

③-2 補足(衝突防止策について具体的にご記入ください。その他、特記事項等をご記入ください。)

--

④ 震度計の設置面についてお答えください。(いずれか一つに○)

建物(犬走りを含む)の床面に直接設置している。		⇒(3)-⑤へ
床面に配筋やアンカー等で接続した震度計台の上に設置している。		
その他		⇒(3)-⑩に具体的に記入後、(3)-⑤へ

④-1 震度計台の構造についてお答えください。(いずれか一つに○)

空洞のない構造である。	
空洞のある構造である。	

④-2 震度計台の形状についてお答えください。(いずれか一つに○)

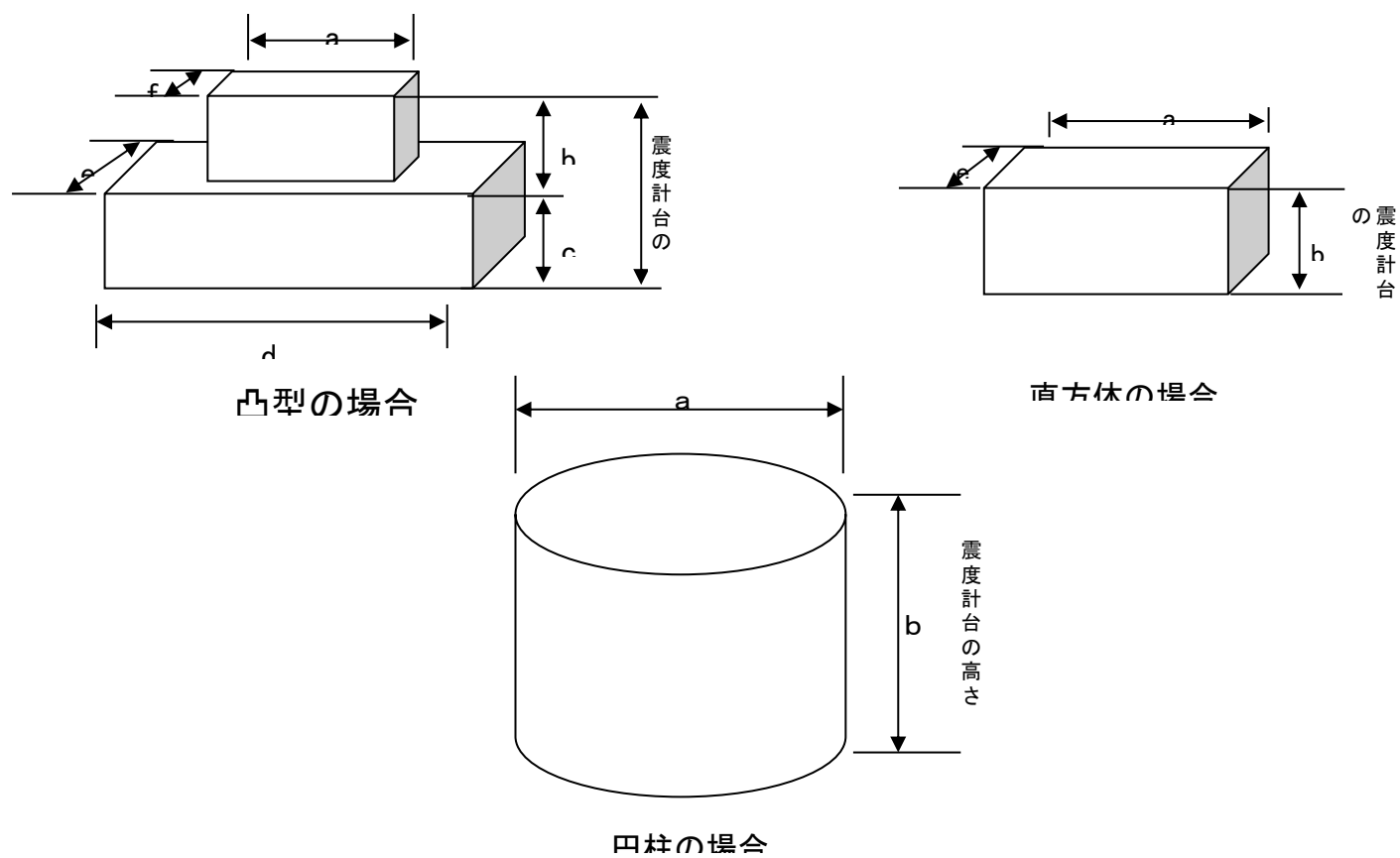
凸型である	
直方体である	
円柱である	
その他	

⇒(3)-④-4に具体的にご記入ください。(別紙可)

④-3 震度計台の大きさについてお答えください。

(図を参考に該当する各辺の長さ(a, b, c, d, e, f) (単位cm)をご記入ください。)

a		cm
b		cm
c		cm
d		cm
e		cm
f		cm



④－4 震度計台の形状について特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。（別紙可）

⑤ 設置床面（震度計台に設置している場合は震度計台）の材質についてお答えください。（いずれか一つに○）

材質はコンクリートである。	
材質はコンクリートでない。	

⇒(3)－⑩に具体的にご記入ください。

⑥ 設置床面（震度計台に設置している場合は震度計台）の状況についてお答えください。＊(いずれか一つに○)

震度計の真下に明瞭な(0.2mm程度以上)ひび割れがある。	
震度計に向かって明瞭な(0.2mm程度以上)ひび割れがある。	
明瞭な(0.2mm程度以上)ひび割れがあるが、震度計に向かっていない。	
軽微な(0.2mm程度以下)ひび割れがある。	
ひび割れはない。	

⇒(3)－⑦へ

※ 状況のわかる写真を添付願います。

⑥－1 ひび割れは前回調査時よりも拡大していますか。（いずれか一つに○）

《定期調査・臨時調査の場合のみご記入ください》

拡大している。	
拡大していない。	
不明	

⇒(3)－⑩に状況を具体的にご記入ください。

⑦ 設置面の下の状況についてお答えください。(いずれか一つに○)

空間なし	
床下あり	
地階あり	
その他の空間あり	

⇒(3)-⑩に具体的にご記入ください。

⑧ 設置面と地表面との関係についてお答えください。(該当に○)

地表(平坦)と同じである。	
地表に対して実質の地階(地盤に囲まれている)である。	
地表に対して実質の2階以上である。	
地盤に囲まれていない地下である。	
段差地形の下面側の地表と同じである。	
段差地形の上面側の地表と同じである。	
その他	

⇒(3)-⑩に具体的にご記入ください。

⑨ 屋内の設置場所の用途について、具体的にご記入ください。

⑩ 補足(特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。)

<震度計の取り付け状況等について>

(4) 震度計センサーの固定状況について

① 震度計設置場所(震度計台等)にがたつき等がありますか。(該当するものに○、複数回答可)

手や足で押しても動かないなど、がたつきはない。	
手、足で押すと動く。※	
周辺を飛び跳ねると揺れる。※	

※震度が計測された場合は、その数値を(4)-⑥にご記入ください。

② 震度計センサーと震度計台、床面、犬走り等との固定状況についてお答えください。(いずれか一つに○)

アンカーボルトで強固に結合されている。	
アンカーボルトを使用しているが固定が甘く、手で動かすと、がたつく。	
アンカーボルトを使用していない。	

③ 震度計センサーは水平に設置されていますか。(いずれか一つに○)

水平に設置されている。	
水平に設置されていない。	

④ 落下物等への対処についてお答えください。(該当するものに○、複数回答可)

震度計台またはセンサーを覆うカバーがない。	
観測点の周りに柵等を設置していない。	
観測点の周囲や上に、固定されていない什器や荷物等がある。	
観測点は比較的人や車が立ち入る場所である。	
その他	

⇒(4)-⑥に具体的にご記入ください。

⑤ 震度計の近くにノイズの要因になり得るものの有無についてお答えください。(該当するものに○、複数回答可)

道路が近い(50m以内を記入)。	
鉄道が近い(50m以内を記入)。	
空調施設の室外機や発電機等のモーターで振動を起こす機械が近い(3m以内)。	
その他	

⇒(4)-⑥に具体的にご記入ください。

⑥ 補足(特記事項等がありましたら、具体的にご記入ください。)

<その他>

(5)ボーリングデータの有無

観測点または観測点近傍のボーリング調査資料はありますか。(いずれか一つに○)

ある※	<input type="checkbox"/>	ない	<input type="checkbox"/>
-----	--------------------------	----	--------------------------

※ボーリング調査資料を添付願います。

(6)その他全体的に気がついたこと

その他気がついたことがありましたら、ご自由にご記入ください。

--